

砂川市 運動会帰りの保護者が飲酒運転

<記者が直撃>

砂川市の・・・あの悲劇の事故から、1年もたたない5月

2016年5月31日(火)21時14分

運動会の応援に来た父親が、酒を飲んだにもかかわらず、車を運転して帰宅。その街では、過去にも、飲酒運転による悲劇が起きていた。

5月28日、取材班が1台の車を発見した。

記者が、車を止めようとした理由は、飲酒運転。

飲酒運転を発見したのは、砂川市。

砂川市では、2015年6月、一家5人が乗る軽ワゴン車が、飲酒運転の車と交差点で激突。

投げ出された長男が、後ろから来たRV車に引きずられて死亡するなど、あわせて4人の命が奪われた。

事故を起こした被告は、同乗者らと砂川市内の飲食店で、直前まで酒を飲んでいて、

あの悲劇の事故から、1年もたたない5月。

砂川市の小学校の運動会の観覧席で、飲酒が許可をされていると聞き、取材班は、許可を得て取材。

そこで、酒を飲んで車に乗り込む男性の姿を発見した。

子どもを応援する男女4人組のうち、男性2人は、記者が確認したところ、午前9時から、午後1時まで、飲酒を続けていた。

午後3時、そのまま車に乗りこみ、運転し始めた男性。

追いかけるものの、車を見失った記者は、付近を搜索。

2時間後、学校近くの住宅街で、特徴が似た車を発見した。

その家を訪ねてみた。

記者「今回飲んでいましたよね？」

妻「そうですよね。(夫は)飲んでいますよね」

記者「(飲酒運転を)止める立場でしたよね」

妻「運転手がもう1人、おばが一緒にいたので、おばが運転していると思った」

・・・妻から、男性の連絡先を聞きだした記者は、男性に連絡。

記者「(午前)9時から見ていたんですが、どれくらい飲んだ？」

男性「(缶ビール)4本くらいですかね」

記者「なぜハンドルを握ってしまったのか？」

男性「(叔母に)免許を持って来てないから、運転したくないと言われてまして・・・。

それで、やむなくと言いますか」

男性は、飲酒運転に対する罪の意識はあるのか。

記者「あの(去年の)事件のこと知っていますよね？」

男性「砂川のことですよね」

記者「二度と、こういう悲惨なことを起こさないと思うのではないですか？」

男性「あ～、人ごとではないと思うんですけど」

記者「きょう、会えないですか？」

男性「ちょっと難しいです」

警察への出頭を呼びかけるものの、最後まで、応じることはなかった。

警察は、車のナンバーから男性を特定し、任意で事情を聴くなど、捜査を進めているという。

繰り返される飲酒運転での悲劇。

気軽に口にした1本が、事故につながることを忘れてはいけない。